

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4092100025		
法人名	株式会社 take care TAKE		
事業所名	グループホーム うすい		
所在地	福岡県嘉麻市下臼井1082番地		
自己評価作成日	平成27年8月30日	評価結果確定日	平成27年9月16日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポートうすい
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号
訪問調査日	平成27年9月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

介護スタッフも未経験から当ホームに入職したスタッフも含め2年~7年と長く勤めて貰っています。その間、スタッフの努力もあり現在介護福祉士5名、ケアマネ1名の有資格者が働いています。スタッフが生き生きと自身を持って介護に携わる事ができれば、利用者の方にも安心していただけると思います。又、本人様、家族の要望もあり看取り介護をさせていただきました。今後も利用者、家族の方と共に17人の家族という理念の下、色々な課題に対して取り組んでいきたいと思ひます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念の大家族で笑顔の絶えない毎日を楽しんでいただくケアの実践に、全職員で取り組んでいる。造設した胃瘻を温存しながら、経口摂取を支援したり、系列老健の理学療法士のアドバイスで手の拘縮予防グッズや車イスのフットレスト用の滑らない足台を作成し、拘縮防止や座位が保てるように支援している。今年、本人や家族の願いでかかりつけ医や訪問看護と連携し、看取りを支援しているが、家族の謝辞ばかりでなく、連携した訪問看護職からは職員の対応に賛辞があった。毎年、資格取得者が増え、「介護が天職です」と入職した職員もあり、生き生きと就労しながら、入居者の人権を尊重するケアが浸透しつつある。恒例の夏祭りでは、参加した家族や系列デイサービスの職員も祭りを一緒に盛り上げるなど、今後は系列法人との連携で、理念の入居者の笑顔の広がりが期待できる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

ユニット/
事業所名 **グループホーム うすい**

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	17人の大家族という理念を常に考え新しい課題が出る度に理念に沿った介護が実践できるよう話し合い、つなげるようにしている。	玄関入口に掲示している理念の実践の成果は、グループホームだからできる入居者の笑顔だと自負している。糖尿病なのにお菓子を食べたいや、夜間再三コールする気持ちを、家族だったらと考えて、日々ケアしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	自治会に加入している。総会や町内会の掃除などに職員が交代で参加している。又区長が運営推進会議に参加されている。近隣の方がさくらの木を切って持ってきて下さっている。	近隣の方が持参した孫の写真を一緒に見たり、お花を持参される関係が継続している。地域にある系列のデイサービスやグループホーム担当者が今年の夏祭りに初めて参加するなど、地域との交流が広がりつつある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	住宅地にある為通りかかりに相談に立ち寄られることが度々ある。相談内容によって必要な機関を紹介している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には今年度から地元区長、行政職員の他に近隣の特養相談員、通所介護所長等にも参加していただいている。会議での意見をサービス向上に反映できるようにしている。	入居者や家族の参加もあり、適切なメンバーで定期的開催され、会議録を整備している。スナップ写真で行事や近況を報告したり、看取りも報告している。参加者から「逝去された方にとってはホームが家だった」との率直な感想があった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	高齢者相談支援センター主催の勉強会や連絡会には出来るだけ参加するようにしている。	管理者が同業者協議会の代表として、地域認知症連携協議会に出席している。日頃から、町の担当者と相互に情報交換をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修にも毎年参加している。日中は玄関の施錠はもちろん居室内の窓も自由に開錠できるようにしている。外出願望の強い方は天候を見て職員と一緒に外出できるようにしている。	入居者の家に帰りたいとの思いは普通の想いで、外出するには動機があると認識し、一緒に外出している。「ちょっと待って」はできるだけ言わないようにしているが、待たせたら「お待たせしました」との挨拶を推奨している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフが外部研修に参加。勉強会の時資料を基に参加スタッフに説明してもらい、広い知識を持って虐待の意味を理解できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する勉強会を行っている。後見人制度利用に関しても事例を出して職員が正しい知識を持つようにしている。高齢者支援相談センターとも連携を図るようにしている。	事業や制度の内容や違いを入居時や随時、説明している。制度の知識が不十分なまま活用し、困惑した家族もあり、活用時は相談してほしいと家族に話している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前にホーム内見学方々説明を行っている。又入院等されて来られない時はこちらから向き挨拶と共に説明に伺っている。不安・疑問点等あれば契約後でもいつでも話し合い出来る旨伝えている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族来所時には意見、要望等あれば話しやすい環境を作っている。玄関には意見箱も設置している。2ヶ月に一回介護相談員の受入をしており利用者の方と自由に会話をされている。	今年の夏祭りは4名の家族や退去された家族の参加もあった。参加した家族等も祭りを一緒に盛り上げるなど、意見を表出しやすい機会や場づくりをしている。また、逝去された方の遺影を飾るなどの配慮もしている。介護相談員の言動が、認知症の理解が不十分と感じることもある。	介護相談員の言動が入居者に及ぼす影響に配慮し、適切な受け入れを期待します。
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃よりスタッフの意見は尊重して聴くようにしている。毎月一回勉強会の場でもスタッフ全員が遠慮なく意見が出せるようにしている。要望に関しては出来るだけ沿うようにしている。	代表者は処遇改善加算等の重要な案件は随時ホームに来所し、職員に説明している。車イス対応ができる専用の車両の購入や、書面を保管する物置が庭に設置されるなど、職員の意見が運営に反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	出勤した際勤務状況を自身の目で確認すると共に勉強会での内容等管理者から報告を受けスタッフの努力や実績を把握できるようにしている。又困難事例等は経営者のみで判断せずスタッフと十分に話し合いよい結果をうむようにしている		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員募集の際はハローワークを活用。年齢、学歴、性別を問わず職員を採用している。月の休みは希望を取り入れプライベートと仕事が両立しやすいようにしている。又職員が自信持って働けるよう各個人にとって必要な研修を受けてもらい将来資格取得に意欲が持てるよう支援し、有資格者が毎年増えている。	ハローワークで求人し、職員を採用している。離職はなく、毎年資格取得者が増え、「介護が天職です」と入職した職員は介護福祉士の資格を取得し、生き生きと就労しており、訪問調査日も研修に参加していた。リーダーや夏祭りや運動会の担当は、毎月や毎回交代することで相互に協力し合い、チームワークが強まっている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	外部研修した資料を基に勉強会を開催。具体例を示して理解しやすいように人権教育に取り組んでいる。	家族の「母に人間として生きてほしい」と入居された方に、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。諸般の事情で退去されたが、認知症に罹患された人として接している。管理者は不適切な職員の態度や言葉は、その場で注意・指導し、入居者の人権の尊重に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各スタッフの力量に合わせて研修に行くよう勧めている。必要と思われる研修には内容を説明して参加を呼びかけている。新たな課題が出てきた利用者に関して、職員には受診介助をしてもらい直接主治医より所見を効き習得するようにしている		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	近隣のデイサービスの行事に参加させてもらったり他グループホーム管理者と意見交換を行っている。又今回当ホーム主催の夏祭り(8月29日開催)にも他グループホーム職員に参加していただくよう声かけしている		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居される前に管理者は家族同意の下自宅又は病院、施設に出向き、不安に思っている事、要望等尋ねている。入居前に事前面談する事で不安解消に努め笑顔で入居されるよう支援している。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に家族に見学に来ていただき、ホームでの生活の内容を説明。家族が困っている事、要望を聴くようにしている。入居当初は面会を控えてホームに迷惑をかけないようにするといわれる方がおられるが、いつでも来て利用者と話をされるようお願いしている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に本人様の状況、家族の希望を伺いグループホームより他の介護サービスを利用されたほうが良いと判断した時は内容を説明して紹介できるようにしている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	何に使うのか説明して野菜の下ごしらえや洗濯物置み、季節に応じた壁飾り、行事に使用する塗り絵など利用者に来る事を見極めお手伝いしてもらっている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族来所時、利用者と一緒に歩行運動をされたり、家族の方が病院受診の付き添い介助をされる時がある。今回夏祭りも参加された家族と一緒にゲームをされたり他の利用者の方とも楽しくコミュニケーションを図られていた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	受診先は在宅時と同じかかりつけ医を継続。馴染みの美容室等も継続してお連れすることを家族に伝えている。	家族の要望の、入居者の好物のうどんの外食は、行きつけの店のうどんが硬くて咀嚼しにくくなり、柔らめのうどん店を探している。家族との関係継続を支援し、毎週末家族と出かけ、プールで泳ぐ入居者もある。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事席やレクの時などは各利用者に応じた席にしコミュニケーションが取りやすいようにしている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も家族の方には夏祭りなどの大きな行事には声かけし参加して頂き困りごとの相談を受けている。亡くなった利用者の家族の方が利用者にと、お菓子を持って遊びに来られる。又退去先が介護施設の場合面会に行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者、家族にこれまでの暮らし方や要望を尋ねている。利用者が意向を伝えられず、家族もいない場合は、本人様の動向や表情を見てホームでの過ごし方を検討している。	入居前の入院・入所先での心身の状況をサマリーで把握している。担当職員は衣替えでクローゼットを整理することもあり、意向や思いの把握に努めている。アセスメントシートを整備し、職員間の情報を共有している。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント時に利用者、家族から生活歴、馴染みの暮らし方等伺っている。介護サービス利用されていた方は事業者へ情報提供依頼し把握に努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録、バイタル表、食事、入浴、排泄表等に記載。朝礼時に特変ある方は夜勤者が報告し継続して状態を把握できるようにしている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリング時スタッフ、家族の意見を聴き、介護計画の見直しを行っている。固定ベッドから介護ベッドへとその時の状況によって高さを調節したり変更している。	定期的なモニタリングで、造設した胃瘻を温存しながら、経口摂取を支援している。また、系列老健の理学療法士のアドバイスで手の拘縮予防グッズや車イスのフットレスト用の滑らない足台を作成し、拘縮防止や座位が保てるように支援している。介護計画に自筆でのサインが継続している入居者もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の日々の状況は介護記録に誰が見ても分かりやすい様又気づきに重点を置いた書き方となるよう指導している。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	急激な体調の変化で余命を言われた利用者の家族の要望で、今まで看取りはした事がなかったが、主治医、訪看と連携を図り結果として看取りをする事となった。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	担当地域の交番、消防署に利用者の特徴、写真、病歴、処方箋等ファイルにして保管してもらっている。又嘉麻市高齢者対策ネットワークに該当する利用者の情報提供シートを家族同意の下提出している。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医に入居後も継続して受診して頂くようにしている。かかりつけ医には当ホームに入居された事を伝え、今後連携を図っていきたく旨を伝えている。	背面の黄疸に気づいて受診した医療機関で、早期に発見できたことを驚かれるなど、適切な情報を提供している。先日、意識消失で緊急入院された入居者もあり、管理者が早々にお見舞いに出向いている。	
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当ホームには看護師を設置していない為受診時、看護師に適切な対処法を習っている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には介護サマリー、個人記録簿持参し、情報提供行っている。入院中は2～3に一回のペースで面会に行き主治医や看護師から情報を得て病状の把握に努めている。退院後も看護サマリーを受け取り退院後も安心して過ごせるようにしている		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時利用者、家族から終末期に関しての考えはお聞きしている。ホームで出来る事出来ないことも説明。利用者や家族との繋がりが深くなっていくと家族の思いにも変化が生じてくる事も予想される為今後看取りに関して検討している。	今年、病院でなくホームで終末を迎えたいとの本人や家族の願いで、かかりつけ医や訪問看護と連携し、看取りを支援している。家族からは謝辞を受け、連携した訪問看護職員からは職員の対応に賛辞があった。管理者一同、看取りに関わり成長できたと感じている。	大家族の一員の看取りが残された家族や職員にとって今後も意義深い関わりになるために、看取りの方針等の整備でさらなる医療とのチームケアを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、事故発生時に備えてスタッフが冷静に対応できるよう順次研修に参加してもらっている。スタッフ全員が冷静に対応できるよう研修参加スタッフに発表、演習をもらっている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急時の職員連絡網が作成しており、昼夜問わず協力し合える。避難訓練では通報、初期消火、誘導訓練をしている。又地区区長に協力要請し了解を得ている。	年2回避難訓練を実施している。避難者の入口の名札を裏返しドアを閉めることや、浴室やトイレに入居者がいないことが確認できないことが、訓練時の課題となった。非常持ち出しグッズが入ったキャスター付きバックを整備している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入室時、入浴時女性の方が多いためあらゆる場面で気配りしている。特に汚染時はどなたも気を使われるので言葉かけに注意している。	便失禁した入居者に対する一職員の対応を、管理者は他の職員に具体的に伝えている。声かけのタイミング、声のトーンや大きさに留意し、入居者の戸惑いや不安を受け止める対応に努めている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の希望にはできるだけ添えるようにしている。日常生活のあらゆる場面において自己決定が出来る方にはその都度働きかけている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の希望を最優先して介護できるよう努力している。グループホームならではのゆったりとした一人ひとりのペースを大事にした介護を行うようにしている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	イベント等で一人ひとりに合ったプレゼントや行きつけの美容室に出かけたり、希望される方は定期的にホームで散髪している。又髪染めを希望される方は染めている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日常のふれあいの中で好物を聴いたり旬の物の話をしたり料理の作り方など聞いている。又誕生会では誕生者に食べたい物を聞き提供するようになっている。下膳や下ごしらえの手伝いもお願いしている。	入居者の心身の状況に応じて、テーブルを3つに分けている。職員の声かけで食が進む入居者もあるが、それぞれのペースでゆっくりと食事をしている。プリン、ゼリー、水分もトロミをつけるなどの工夫で普通食を食べられるようになった経管栄養の入居者もあった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスの良い食事を提供できるよう近隣の特養栄養士から献立表を貰っている。利用者の状況に合わせて食事形態の変更も随時行っている。食事・水分摂取量の記録も整備している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自力で歯磨きできる方は見守りを行い、介助が必要な方は個々の口腔内に応じてスポンジブラシ等使用している。義歯洗浄は夜勤者が洗浄液に浸けた後返却している。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	各利用者の排泄状況に応じて紙おむつ・紙パンツと分けている。夜間のみポータイル設置して安心して排泄行為が出来るようにしている。毎日記入している排泄表で排泄間隔等もチェックできるようにしている。	便失禁した入居者の下着やズボンがきつめだったことに気づき、着脱しやすい下着やズボンの着用を提案している。排泄に対する不安に配慮し、夜間のみポータブルトイレを活用したり、外出時のみ紙パンツの着用を支援している入居者もある。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床後白湯飲用。10時の水分補給前に便秘体操を取り入れ運動して頂いている。水分表確認して摂取量を把握できるようにしている。便秘薬は微調整して負担が掛からないようにしています。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	月曜から土曜までに週3回入浴日にしているが、便失禁などの汚染時は直ぐに対応できるようにしている。入浴困難時は全身清拭施行。手・足の拘縮がある方は二人介助にて施行。入浴日以外は足浴・手浴にてマッサージをし拘縮予防を図っている	本人の意向や身体状況を配慮し、週3回の入浴を柔軟に支援している。車イスの入居者は職員が2名体制で支援したり、手足の拘縮が進んだ入居者には、系列老健の理学療法士より習ったマッサージを、入浴時に行っている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣や過ごし方を尊重して自由に過ごして頂く様にしている。夜間眠れず、寂しくなってスタッフの所へ来られる方にはお茶を提供してゆっくり話が出来る状況を作り、安心して居室へ戻っていかれるよう支援している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診先の処方箋は介護記録に綴じている。薬は事務所にて管理し、スタッフが服薬確認をしている。便秘など服薬による副作用と思われる時は直ぐに主治医に報告するようにしている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	恒例の運動会や餅つきなど利用者の方が主体で参加できるようにしている。大きな行事の出し物は準備の段階で利用者の方にも手伝って貰い楽しんでいただけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族の要望で月に一回外出援助(うどん屋さん)にお連れして一緒に昼食を食べたり、利用者の希望で美術館へ絵画鑑賞に外出している。年間行事で花見や紅葉狩り等で外出の機会を増やしている。	車イス対応の車両を活用し、月1回うどんを食べに出かける入居者に同行している。入居者の希望で自宅までドライブした折、自宅の隣人を管理者に縁付けたいとの思いから家に連れて行けと言ったと分かり、管理者は驚愕したが、外出支援の理解が深まっている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居時に家族へは本人様が希望すれば外出できる事を伝え預かり金で買い物等一緒に行けることを伝えている。初詣には賽銭箱に自身で入れられお参りされている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族が利用者に携帯電話を持たせて安心できるよう支援されている方もいます。ご家族同意の下で電話を掛けられるよう支援しています。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関から入って直ぐに共有空間があり、談話室の空きスペースで洗濯物を畳みながら中庭の景色を眺める事ができる。	玄関の左手はガラス張りの事務室が設置され、その前には大型テレビを囲んでゆったりしたソファが置かれ、中庭と犬小屋が見え、入居者の寛ぎの場となっている。玄関正面のリハビリ用の平行棒と手すり、歩行訓練をしている。右手の厨房前にはテーブルや椅子が設置され、壁面には季節感のある手作造りのお月見の飾りものが掛けられている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	談話室はゆったりと寛げるよう大きなソファを置いている。多人数で面会に来られた家族はここで利用者と一緒に過ごし、利用者同士でおしゃべりを楽しんでいる。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に本人様が好んで使用された物等持参して頂いている。最近では数人の家族が暖簾をかけられ戸を開け放たれている。	畳敷きやフローリングの居室があり、入口には手作りの表札と家族持参の暖簾が掛けられ、居室の間違いを防止している。入居者の状況や転倒に配慮し、電動ベットやベット下にマットレスを設置している。愛用の家具や冷蔵庫、テレビを持参し、心地よく過ごせるように配慮されている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下は広く車椅子や歩行器を使用しても安全に移動しやすいようにしている。廊下、トイレ等にも手すりを設置し、安全に移動できるようにしている。手作りの表札を付け利用者が迷うことなく自身で居室へ戻れるようにしている。		